

令和7年度 花巻新渡戸記念館運営協議会 会議録

1 開催日時

令和7年12月16日（火） 午後1時30分～午後2時50分

2 開催場所

花巻新渡戸記念館 事務室

3 出席者

(1) 委員 6名

木村清且委員（花巻市文化財保護審議会副会長）

葛岡貞典委員（花巻史談会）

佐々木豊委員（一般社団法人花巻観光協会専務理事）

多田アツ子委員（矢沢地域振興会）

継枝イク委員（花巻市地域婦人団体協議会事務局長）

福盛田弘委員（花巻芸術文化協会副会長）

(2) 事務局 5名

生涯学習部 菅野生涯学習部長、梅原生涯学習課長

花巻新渡戸記念館 嶽間澤館長、久保田副館長、中島上席主査

4 欠席委員 なし

5 傍聴人 なし

6 議題等

(1) 令和6年度事業報告について

(2) 令和7年度事業について

(3) 令和8年度事業計画（案）について

7 議事録

【会議成立の報告】（久保田副館長）

構成委員6名全員出席。出席委員数が構成委員の半数以上なので、花巻新渡戸記念館管理運営規則第9条第2項により、本会議が成立することを報告。

【1 開 会】（久保田副館長）

【2 あいさつ】

（久保田副館長）

はじめに、菅野生涯学習部長よりごあいさつ申し上げます。

（菅野生涯学習部長）

本日はお忙しい中、審議会にお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

ここに来るたび、いろんな季節の風景があって、ちょうど雪景色の前の落ち葉が落ちきって、今日はちょっと寂しい風景になってございますが、四季を楽しめる記念館だと思ってございます。

ただ、最近は四季じゃなくて二季になってきまして、気候の変動というのがちょっと怖いような感じもしていますし、花巻に限らず全国的にクマ騒動ということで、いろんなところに影響が出て、市内では人命に関わるような事故は起こっていませんけれども、クマも冬眠するののかもわからないというような状況で、いろんなイベント等にも影響が出ています。皆さんもお気をつけください、と言ってもなかなか難しい話ですけれども、やっぱり自分でも気をつけなければならないと思っております。

本日は6年度の事業報告から、8年度の事業計画ということでご説明させていただきますので、活発な協議をどうぞよろしくお願いいたします。

（久保田副館長）

次に嶽間澤館長よりごあいさつ申し上げます。

（嶽間澤館長）

嶽間澤でございます。

ご多忙の中、当運営協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

私、10年以上この仕事に携わっておりますが、全委員さんと部長・課長をお迎えし

ての会議は初めてでして、圧倒されております。

まずもって木村会長さん、福盛田さん受賞おめでとうございます。長年にわたり当運営協議会にご指導ご協力いただきまして、本当にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

入館者数はコロナ禍の関係で 4,000～5,000 人まで落ちましたが、令和 5 年度から盛り返して 9,000 人近く、昨年 6 年度については 8,000 人。今年は 11 月末の段階で 8,000 人近くまでいっていますので、去年を超えるかなと思ったんですが、ほとんど県外からの入館者でございますので、秋のクマ騒動とか現在の地震関係で今後どうなるかちょっと心配なところではございますけれども、地震が落ち着いて県外からの入館者も増えてくれればいいなと思っています。

懸案であります市内の特に小中学校関係の利用が、だんだん低迷してきておりまして、今年も市内小学校 16 校、中学校 10 校を訪問し校長先生にお願いして、全職員にチラシを配って欲しいということを依頼してございます。ただ、学校現場も依然忙しくて、なかなか市内の施設への校外学習が組めないような状況にも若干あるような気がいたします。

その中でもやはり中学校、私個人としては岩手県の子どもたちには、原敬と後藤新平と新渡戸稲造は教えるべき人物ではないかなと思っています。特にも新渡戸について勉強できるのは、盛岡と花巻しかないわけでございますから、また引き続きそういう教育普及活動に努めてまいりたいと思います。

今年これから楽しみにしていることがございまして、10 年前に札幌にあるアメリカ総領事館から日米友好として、ハナミズキ 25 本を贈られて向こうの丘に植樹したんですが、生育状況はそれぞれ場所によって変化はありますけど、5 本ほど枯れて、いま 20 本くらいは元気に育っております。

それで去年の秋頃、シドモア桜を植えないかということで、横浜のある方をご紹介されまして、今年の新渡戸フェスティバルで、そのシドモア桜を 5 本あの丘の上に植樹いたしました。いまちょっと苗木が小さいんですけど、10 年ぐらい経てばここは桜の名所になるんじゃないかなと思っています。

資料にも載せておきましたけれども、シドモアさんについてちょっとご説明いたします。アメリカのジャーナリストで明治 13 年に、お兄さんが横浜の領事館の書記官として赴任しておりまして、その関係で 20 代で日本に来て人力車で旅行をしながら、

日本をアメリカに紹介したという方なんですね。アメリカのトップレディー、外交顧問みたいな形でワシントンの大統領近辺に近づくことができる立場の新渡戸さんより6歳年上の女性でございました。

それで彼女が日本に来て、隅田川に咲いている桜並木を見て感動し、アメリカにも桜を、ワシントンの首相官邸近くのポトマック公園に、日本の桜並木のように桜を植樹できないかということで、当時の大統領のタフト夫人に進言して日本の桜をアメリカに植えた、それを推薦した女性でございます。

新渡戸さんとどういう関係があるかといいますと、明治の末期に日本とアメリカが非常に険悪になった時代があって、日本からもアメリカに行って、日本の状況を説明できる大学の先生を派遣しようと、アメリカからも日本にアメリカの大学教授が来て、各大学でお互いに相互理解を進めようという運動が、アメリカではカーネギー（財団）サイド、日本では渋沢栄一が中心になって資金を出して、新渡戸さんは1年間アメリカに行って、各大学で講義したんですが、その際にワシントンでタフト大統領に会い、このシドモアさんの家に泊まって歓迎会を開いてもらった。それが付き合いのきっかけなんです、その後排日移民法を巡ってシドモアさんがやはりこれはおかしいということで、この排日移民法を成立させないような運動を新渡戸さんと一緒に進めたという仲でございます。

国際連盟の理事長をやった時代に、このシドモアさんもあとを追いかけるようにジュネーブへ引っ越しして、ともに排日移民法反対の運動を国際連盟の中で行った。そういう関係で、最終的には新渡戸は日本に帰ってくるんですが、シドモアさんは72歳でジュネーブで亡くなった。そこで、日本の横浜外人墓地にお兄さんとお袋さんの遺骨が眠っているお墓があるんですが、そこに遺骨と一緒に埋葬しようという呼びかけを新渡戸さんが中心になって行い、遺骨を持ってきて埋葬した。その葬儀の際には40分近くの英語での追悼の辞を述べた。そういった付き合いがある方でした。今回持ってきた桜は、ポトマック公園に送った桜の接ぎ木から苗木を作って、横浜の外人墓地のシドモアさんのお墓の近くに植えた。その桜からさらに苗木を作って持ってきたのが今回の桜です。日本全国でそういったシドモア桜を植樹する活動をしている方がいまして、今回新渡戸に関する場所で岩手県にも植えたいということで、結果的には東北で初めての植樹になりました。

できれば今後、あの丘に「日米友好の丘」とか「新渡戸・シドモアの丘」とか何か名前をつけて、せっかくハナミズキと桜、日米両国の花が咲く丘になりますので、何

とか候補を考えていきたいなとそう思っているところでございます。

いま小泉八雲のドラマをやっていますが、シドモアさんは女性版小泉八雲じゃないかなと、日本全国をアメリカに紹介、それから新渡戸さんが太平洋の架け橋を日本からアメリカ・西洋にかける働きをしましたが、このシドモアさんは逆にアメリカから日本への架け橋をかける、こういう存在じゃないかなとそう思います。

そういったシドモア桜を今年植えさせていただきましたので、今後とも庭が綺麗に花咲く庭になる、そう思っているところでございます。

長々と話しましたが今日のご審議の方、どうぞよろしく願いいたします。

(久保田副館長)

当運営協議会の木村会長から一言ごあいさつをお願いいたします。

(木村会長)

いま嶽間澤館長さんのお話を聞いて、初めてこのシドモアさんという方を知ることができました。ありがとうございます。

当館に来るたびに、私はこの建物というのは古くはないなと思っております。もう 30 何年ですかね。

今年、図らずも、感謝状を間違って 2 枚もらったんじゃないかなと思ってですね。本当にありがとうございます。

こういう建物が自分の子どものような感じがありましてですね。

今日は 6 年度、7 年度、8 年度の計画について、協議させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

(久保田副館長)

ありがとうございました。

それでは早速、次第 3 の「議事」に入ります。議長は記念館管理運営規則第 8 条第 2 項の規定によりまして、会長が行うこととなっておりますので、木村会長さんよろしく願いいたします。

(木村会長)

はい。では暫時、「議事」の進行をさせていただきます。

3「議事」(1)の令和6年度事業報告について、事務局の方からご説明いただきたいと思います、どうぞ。

【3 議 事】

(1) 令和6年度事業報告について

令和6年度事業報告についてを中島上席主査から、利用状況等の報告については久保田副館長から説明。

(木村会長)

はい、ありがとうございます。

いま令和6年度の事業報告につきまして、ご説明がありました。

これを受けまして委員の皆さんご意見のある方はどうぞ言ってください。佐々木委員さん。

(佐々木委員)

いまこのアンケートの結果を見てちょっと驚いたのは、県外が圧倒的に多いということなんですよ。いろいろな施設、あるいはいろいろな催し物やイベントのアンケート結果を拝見するんですけど、これだけ県外が圧倒的に多いという結果が出ているのは、私初めて見たような気がして、そうであれば、今後の告知をどういうところにやっていけばいいかなど。県内は確かに1回来れば2回・3回目はどんどん減っていくのは仕方がないことだろうから、県外が多くなるというのは自然なのかなとは思いますが、新渡戸記念館の特徴なのかなと思って拝見しました。

もう一つ意外だったのは、この契約業者ですが、花巻観光協会、十和田電鉄観光、宮交観光サービスとJTBとかあるんですけど、意外と少ない、これは代表的なところを挙げていて、これ以外にもあるんですか。これで全部？

(久保田副館長)

観光クーポン券の契約業者は、これで全部です。

契約業者自体は10社近くあったと思いますが、そのうち実際に当館に観光クーポン券で来ていただいているのは、④の観光クーポン券の年度別利用者数に記載の業者くらいという感じです。しかも最近では花巻観光協会さんとJTBさんくらいしかないという状況です。

(佐々木委員)

この旅行会社、バス会社を含め旅行会社も代替わりしているんですね。コロナ禍を挟んで、かなりスタッフが変っているんですよ。我々もいろいろな旅行会社とか歩くけど、もう知らない人達ばかりで。昨日までは全部花巻のことはわかっている誰々さんがいて、いや、その方はもう変わりましたと知らない人が来てね、いちからやり直しなんですよ。そのためにモニターツアーとか、その気があるようなところのスタッフを招聘して、こういう所だよというを見せて、そういうことをやっているんですけど、まずスタッフが変っていて、いちからの宣伝のし直しというか、いろんな意味で必要だなと感じていますね。バス会社も旅行会社も、覚えていてくれたはずだったのと思う旅行会社とかバス会社が、もう変っているから、わかっていないんですよ。

(木村会長)

はい、ありがとうございます。他にございませんか。

なければ(2)の令和7年度の事業につきましてご説明をお願いいたします。

(2) 令和7年度事業について

令和7年度事業について、報告及び今後の計画を中島上席主査から、予算概要及び来館者アンケートについては久保田副館長から説明。

(木村会長)

はい、ありがとうございます。

まだ7年度なわけですけども、予算の関係では前の年よりは少し多くLED化の関係で改修が進んだということでもあります。

何か質問なり意見等ございましたら。葛岡さん何かございますか。

(葛岡委員)

はい、先ほど館長さんからシドモア桜についていろいろご説明がありましたけれども、貴重なお宝がまた花巻に増えたなということからしますと、もっとPRといいですか、ここにこういうものがあるよということですね、どういう形がいいのかというのはあると思いますけども、例えばシドモアという人はどういう人なのかということからスタートしてもいいのかもしれないですが、そこから新渡戸さんとの交流とかと

いうふうに、何か奥深さが増したなという感じでお伺いしておりました。

あと友の会につきましても、もっと友の会の会員が増えて、新渡戸さんについてですね、花巻の新渡戸家というのが、やはり花巻にとっては新田開発はもとより、農業関係者からすれば新田開発の功績が大きいわけですし、稲造はもちろん世界的な偉人ですけど、新渡戸家もやはりそういう意味では農業者に関しては、もっと知ってもらいたい、その家系の家柄だということもですね。

私はたまたま農家なものですから、二枚橋の新田開発なども手掛けられたというふうなことも見たりしますと、そういう新田開発もやられたということはですね、本当にもっともっと広報といいますか、PRをしてもらいたいなという感じがした次第でございます。

(多田委員)

質問です。参考資料の方で、お伺いしたいことがあります。

20歳未満の来館者という数字が思いのほか少ないんですが、これは小中学生、高校生が入っているかどうかということをもっと一つお聞きしたいと思います。そして二つ目は「・・・何で知りましたか」という質問で、前と違ってインターネットという回答が、今年は人数を比べるわけにはいきませんが、この部分が多くなっておりますので、記念館として、このインターネットに関わる募集要項などをどのようになさっているか、二つの点についてお聞きしたいと思います。

私としては、修学旅行とか見学とかは入っているかどうかというところを知りたかったわけです。思いのほか数字が少ないので、これは個人で来た方のみの数字なのか、それとも団体で来た人が入っているのかどうかということをお聞きしたいと思います。

(久保田副館長)

結論から申しますとアンケートの記載について、個人の方の回答か、団体の方の回答かは当方では分かりかねます。テーブルに置いてあるアンケート用紙に自由に記載し、回収箱に入れていただく形のアンケート方法なので、回収箱に入れるところを見ていない限りは個人か団体かというのは分からないからです。昨年度に関しては、修学旅行生ではありませんが、十和田市・平塚市・花巻市の友好都市少年少女自然体験交流事業の一環で毎年小学生の子どもたちが来館されますが、その際の参加児童がアンケートを入れてくれたところを目にしたことがありましたので、小学生の回答は

含まれています。それと市内の小・中学生は、まなびキャンパスカードの提示で無料入館できる事業を実施しておりまして、そのキャンパスカード利用のお子さんたちも回答してくれることがあるようですので、小・中学生の方も含まれているとは思いますが、ただ、確実かと聞かれますと確認しているわけではないというのが現状です。

(嶽間澤館長)

ちょっと誤解しやすいんですが、あくまでもアンケートなので、入館者とは違うんですよ。だから、県外がすごく多いというのは、例えば小中学校、高校の修学旅行とか、いま言ったように姉妹都市とか、それから今年は慶応大学の附属校が来たり新渡戸さんの関係する東京の学校が勉強しに来たり、だからこれはあくまでもその中でアンケートに気づいて書いた方の合計でございまして、小中学生、高校生の数字は入っております。

(多田委員)

もうちょっと多い数字を見たいですね、ということです。

(嶽間澤館長)

そうすると、入館したときにアンケートのご協力を呼び掛けしたほうがいいかもしれませんね。それがいままでちょっとなかったから。

(多田委員)

インターネットで、宣伝はどんなことをやっていますか。

(久保田副館長)

いまのところ、インターネット系はホームページだけですが、

(多田委員)

去年と変わった部分はございますか。

(中島上席主査)

毎回の企画展は載せておりますし、友の会の募集も載せています。毎月1回は新渡戸家のここ記念館の風景を掲載し更新しておりました。ちょっとした風景なんですけど載せておりますのでぜひご覧ください。あとたまに市役所のインスタグラムの方に載せてもらったり、景色が綺麗だったりすると取り上げてもらったりはしていました。

(多田委員)

反応があっていいですね。いまのこれで反応があるのかなと思って見ていました。

(佐々木委員)

反応あるよね。

(多田委員)

令和7年度全体じゃないのでまだわからないんですけども、ちょっと見ただけでは、かなり反応があるので工夫なさっているかなと思いました。

(佐々木委員)

いまの多田委員さんの質問にちょっと関連する流れでいくと、その3ページの(2)入館者数の内訳の表のところに個人と団体の数字が出ていますが、20歳未満が少ないという話しの中から見ると、この「団体」の中に20歳未満の学校・教育関係は入っていますか。

(久保田副館長)

3ページ上の入館者の内訳の表の「団体」の部分ですよ。

これはあくまで団体割引券や団体クーポン券で入館した人数になりますので、修学旅行生は含まれていません。

(佐々木委員)

妙に団体が少ないなと思って、もっと修学旅行生来ているんじゃないかな。

(久保田副館長)

すみません、「団体」の方にあまり含まれていないと言うのは、共通入館券を購入すると団体割引ではなく、共通券の割引になりますので「共通券」の集計に入ります。修学旅行生の場合は賢治記念館とかも見学される場合が多いので、団体ではありますが、多分「他館販売分」の「共通券」の方に含まれていると思います。

(佐々木委員)

そうするとこの団体・個人という数字の分け方・出し方が、ここでは本当の意味での団体・個人じゃないということですね。

(久保田副館長)

この表の内訳ではそうなります。

本当の団体、何人以上を団体とするかというのがありますが、購入券に関係なく個人と団体も集計できるようにはしていましたが、あくまで資料に掲載しておりますのは、「団体券」を購入した団体ということになります。

(菅野生涯学習部長)

修学旅行とかだと、あらかじめ共通券何館分を何枚準備しておいてくださいと言って来る場合もあるようなので、そうすると共通券何枚という集計にしかならないので実際の入館者の種類と違う集計になってしまうのかと思います。

(佐々木委員)

他館販売分と当館販売分を足したところで、この個人・団体の数字とも合わないし、どうやってこれは納得したらいいかなと思って苦慮していました。

(多田委員)

1万人の目標というのは、どこを基準に出しておられるのでしょうか。いまのお話しを聞けば、共通券は団体の入場者に入っているか入っていないかわからない部分もあるわけですかね。

(久保田副館長)

あくまで当館に入館した一般のお客様の数で、団体でも他館で共通券を買った方でも、入館者の人数にはカウントされています。

(菅野生涯学習部長)

個人と団体と共通券を買った人に分けての表示になっています。

(多田委員)

ありがとうございます。

(久保田副館長)

(2) 入館者数の内訳の「合計」を見ていただければ、その前ページの(1) 入館者数の月別の推移の「計」と同じになっていることがわかると思います。

(多田委員)

はい。ありがとうございました。

8,754人、あと少しですね。

(久保田副館長)

そうですね、11月末日で7,018人なので、あと4ヶ月ありますが、今月もなかなか入館者が少ない状況が続いておりますので、来月からの花巻観光協会さんの“どんぐりとやまねこ号”に期待しております。

(福盛田委員)

10月18日のこのフェスティバルの内容を、いま編集中のタウン矢沢に掲載予定で、毎年1年に1回30ページほどの矢沢地域全戸配布のタウン誌を作っているんですが、新渡戸フェスティバルの植樹祭の時には矢沢中学校の生徒も関わってくれたので矢沢にゆかりがあり、このシドモアの記事も載せ写真は当館からお借りして、内容はこの資料の原稿の内容をそのまま掲載・加筆しながら記事にしたいと思っています。昨日も編集会議があって、大体30ページほどのカラー版なんですけど、そういうタウン誌を発行する予定になっています。

あとこの出前講座に関してですが、館長さん今年は矢沢中学校の方へは行かれたんですか。

(嶽間澤館長)

残念ながら要請がありませんでした。

生徒に配ってほしいと一生懸命チラシは配っています。この前『本立末治』^{もとたちてすえおさまる}の本物を展示したので、矢沢中学校にあるのは複製品ですから、ぜひにと。

(福盛田委員)

今度、校長先生に話ししておきます。学校の運営協議会があるので、そのときには話しをして、毎年新生が増えるということになるので、一貫校を目指している学校ですので、やはり地元の施設の紹介を多く入れてぜひ内容のあるものにしていかないと。

あと葛岡委員さんもさっき言われた通り、友の会の会員はやはりちょっと少ないんですよね。もうちょっと多くしてもらえば、新渡戸を知って、そして佐藤昌介を知っ

て、そして島善隣を知ってということで、その3人の偉人を皆さんに知ってもらいたいと思います。この友の会の会員募集は、リーフレットか何かパンフレットがあって、宣伝をしているんですか。

(中島上席主査)

ホームページに出ています。

(福盛田委員)

そういう会員が増えれば、ある程度入館者も1万人を目指すことができるのではないかと考えているんですけれども。やはり、どこからか友達が来たり、旅行者が来たときに、地元のところの施設に行ってみるかということもあると踏んで、宮沢賢治記念館ばかりじゃなくて、新渡戸の方にも声をかけて、博物館もありますし、矢沢にはいい施設があるので、そんなところもPRして。

(嶽間澤館長)

はい。タウン誌をお書きになって配布する時に、もしシドモアさんに関心があったら、新渡戸記念館に来れば説明資料を無料でもらえます。

(多田委員)

友の会に関わってです。

私の所属する団体で、ここで講話をお聞きしたことがあったんですが、そのときに「友の会にどうぞ」と私が勧めたところ、何人だかわかんないけど、1人2人だったかもしれませんが入ってくださったと思います。

また来年度に県からいろんな人が来る会議がありますので、そこで宣伝しようかと思っておりますが、やはり身近に宣伝するとね、入ってくださるなと思いますので、友の会の会員になっておられる方頑張りましょう。

(嶽間澤館長)

よろしくお願ひします。

(葛岡委員)

何かこの簡単に友の会はこんなことをやっていますよ、みたいなチラシ程度のものがあれば、人に渡せますよね。

(福盛田委員)

県立博物館ではちゃんと出しているよね。

(中島上席主査)

無料で一方的に当館の情報を出している状況です。

(多田委員)

ただその経費を心配しているんですよ。県の博物館であれば、もうやめました。が年会費があったんですけども、また、ここで年会費となると、ちょっと大変なことになるので、あまり宣伝しても、その郵送代がかかるかなという懸念もあったりしてね、悩んでいるところです。

(中島上席主査)

一応、決め事がありまして、花巻と近辺地域の人たちを募集しています。

(葛岡委員)

思いつきでちょっとお話しさせてもらおうと、先ほどインターネットということがありましたが、例えば紹介のときに、会員といえますか登録してもらえれば、新渡戸に関する情報を継続的に送りますよとか、何かお金もかからないアピールの仕方も一つあるのかなとちょっと思ったものですから。

(木村会長)

他にございますか。

(継枝委員)

(花巻市婦人団体協議会の)総会のあとに新渡戸さんのことを少し楽しくお話しをするのもいいのかなと、いま聞いていて思いました。

それからもう一つ、よく東京とか大阪とかに行ったときにですね「どちらからいらっしゃいましたか」と聞かれ「岩手の花巻です」「ああ大谷ですね」とよく言われまして、そのときに「大谷もすごいんですけど、新渡戸稲造さんはご存知ですか」と一言私も添えれば、会話の中で何かが進んでいくのかなと、ふと思いました。

(木村会長)

ありがとうございます。他にありますか。

はい、それでは進めます。(3) 令和8年度事業計画(案)についてご説明願います。

(3) 令和8年度事業計画(案)について

令和8年度事業計画(案)についてを中島上席主査から、管理運営については久保田副館長から説明。

(木村会長)

はい、ありがとうございます。

(3)の8年度の事業計画につきましてのご説明がありました。ご質問なりご意見がありましたらどうぞ。

(多田委員)

収蔵資料についてお伺いしたいと思います。

ここができた頃には、たくさんの収蔵品が集まったと思いますが、近年、新たに増えている資料にはどんなものがございますでしょうか？

(中島上席主査)

今年度はなかったんですが、その前ですと雛人形の寄贈が多く、押し絵雛を受け入れました。

(葛岡委員)

以前、新渡戸稲造展示コーナーにキューリーさんの鉛筆だったか赤鉛筆だったかがあったような記憶があるんですが、あれはどうなったんですか。

(嶽間澤館長)

先人記念館にあります、キューリーさんの赤鉛筆。あれ会議に来たときにキューリーさんが落としていったらしいんですよ。そして新渡戸さんが拾って、テレビでも紹介されましたが、あれは先人記念館です。ちゃんと昔みたいに鉛筆を削ってそこにサインしてあります。

(葛岡委員)

わかりました。

(嶽間澤館長)

当館で一番貴重なのはセオドア・ルーズベルトからもらった懐中時計。武士道を読んで、当時のアメリカ大統領が感動し新渡戸さんにプレゼントし、新渡戸さんがお姉さんにその懐中時計の使い方を書いたと思うんですが、面白い表現を見つけまして、使い方のところに、ここを回すと「音を持って時を知らせる」音が出るよと、そのところに「時を[●]すらせ」と書いてあるんですよ。本来は「し[●]らせ」と書くべきところをそのまま「すらせ」と書いている。新渡戸さんは英語が達者でも、東北弁は抜けていないんだなと思います。

(葛岡委員)

面白いですね本当に。

(嶽間澤館長)

佐藤昌介さんもそうですね。博物館の音声聞くと「本日(ほん[●]ずつ)はお集まり(おあ[●]づまり)いただきまして」という感じで。

(福盛田委員)

さっき6年度の事業報告の中で、島善隣の没後60年があったんですが、私らの矢沢タウン誌にもそれを特集として載せております。阿部^{のぶゆき}弥之さんの原稿を入れて、写真とかも掲載して厚みを持たせておりますので、もし見られる方は見ていただきたいと思います。

(嶽間澤館長)

当館にも寄贈いただいております。ありがとうございます。

(木村会長)

他にございますか。

この安野地域で伝承されている^{かぐら}神楽、こども園児による^{しんがく}神楽と和太鼓、これ毎年実演されていますが、どこかのこども園ですか。

(嶽間澤館長)

島こども園さんとやさわこども園さんです。

やさわこども園で園児に地元の保存会の人たちが来て教えている。小さいうちから

神楽の魅力を。

最近、“神楽の町花巻”になってきているんじゃないですか。

(木村会長)

その辺やはり地域の文化とすれば大事なのかなと思っけていまして、これ毎年やられているから、そういうふうなこう意味があるんだなと思っけてみましたですけど。

(3)につきてまして、ご意見とかございませんでしたなら、これで(3)については、閉じたいと思っけております。

私に課せられた議事のところをこれで終了させていただきます。いろいろとありがとうございました。

(久保田副館長)

木村会長さんありがとうございました。

それでは、次第の「4 その他」に移ります。

【4 その他】

●「令和8年度からの施設の開館時間並びに休館日の見直しについて」令和7年12月4日付け文書により説明し、各委員から意見等特にない旨の意見聴取は終えているが、再度久保田副館長から説明し、改めて質問・意見等の確認を行った。

(多田委員)

宮沢賢治記念館とイーハトーブ館が火曜日(休館)となっているのが大変いいなと思っけています。よく花巻の宿泊施設にいろいろな団体が来るんですけども、その足でちょっとこういうところを見たいという人たちがいくらかいるようですね。そのときに月曜日みんな休館で残念だなという声を聞っけておりますので、かえって月曜日はどこも休みだよというのがわかるのは大変いいこと、かえってね、いいんじゃないかなと思っけていますが、新渡戸記念館ではないんですけども、この賢治記念館とイーハトーブ館の火曜日休館というところは別のところで宣伝しておいた方がいいかなと、ちょっと気がつきましたので感想です。以上です。

(葛岡委員)

閉館時間という意味はわかるんですけども、たまたま私、岩手県立農業ふれあい公園の農業科学博物館に2、3日勤務してございまして、あそこ16時を30分前に入館

者がいない場合は閉めるということをやらせてもらっているんです。なので、その辺は応用で何とかなるかとは思いますが、16時30分ということで、16時30分に来ると入っても見れないですよ。その辺はあえて言う必要はないのかもしれませんが、ちょっと気になったものですから、他の館も含めてですね。

(久保田副館長)

条例上は閉館16時30分となっていて表示されていませんが、16時30分までに入っただけであれば、17時まで見学できるように運用しております。その辺はチラシ・リーフレット等には記載しておりましたが、条例上は一応閉館としては16時30分までということになっておりました。閉館の運用に関しては、施設によってまちまちとなっております。

(嶽間澤館長)

博物館は16時30分から清掃が入る関係があって、確か時間通りに。

(菅野生涯学習部長)

時間通りに閉めます。

(久保田副館長)

職員は17時15分までの勤務ですので、一応16時30分までに入っただけであれば、17時まで見ていただいて、17時になってから閉館の準備をするような形ですし、16時30分以降に来た方には「閉館です」と言ってご遠慮いただく形にはなってしまいますが、いままでもそのように運用をしておりましたし、そこは条例の開館時間を改めましても、同様の運用をしていきたいと思っております。

(葛岡委員)

あと、クマですね。

ここにクマが入って来ることはないと思いますけど、たまたま午前中保健センターに行ったら、自動ドアを開かないようにしていたんですよ。岩手県立農業ふれあい公園の農業科学博物館も把手を使って脇から入るように、自動ドアを止めたんですよ。クマは把手使って中に入らないだろうと思って、そういうふうにやりましてね、身の安全・館の安全のためにはちょっと山も近いので、クマ対策をくれぐれもご注意された方がいいかなと思ひまして、余談でした。

(久保田副館長)

他の民間の施設とかでも、やはり自動ドアを止めて手動にしているところがありますので、その辺はどうすべきかというところではありますが、一応当館の近辺で、安野橋の東側（当館側）の方や矢沢中学校の付近等で、クマの目撃情報があったりしますので、（クマが入って来ることも）あり得るかとは思っております。ありがとうございます。

(多田委員)

さくらんぼの実も好物みたいですね、春先はね。だから表示をしておいて手動でやれるようにしておけば安心ですね。来ないとは思いますが、来るかも知れないので。

(梅原生涯学習課長)

近くで目撃情報があったときはそういった対応も必要と思っております。

(福盛田委員)

いまクマの話し出ているけども、花巻市でクマスプレーを観光地とかいろんなところに配っていると SNS に発信していたように思いましたが、当館でも貰っていますか。

(佐々木委員)

観光施設には配られていないですね。花巻観光協会では童話村のところに“森の店っこや”を営業しているけど、みんな自前で、自分たちで買って用意してあります。クマ鈴ももちろんそうですし。

(久保田副館長)

小・中学校の方には配布されているようですが、観光施設にはないです。

では、休館日等の見直しに関しては以上で終了し、次に梅原生涯学習課長の方からお知らせがあります。

●「新渡戸の夢」ドキュメンタリー映画上映についての梅原生涯学習課長からの周知。

皆さんのところに「新渡戸の夢」というこの映画会のチラシを置かせていただきました。来年1月31日に文化会館の大ホールで、新渡戸稲造が始めた夜間中学を受け継いでいる人たちのドキュメンタリー映画を上映します。今年の春先に盛岡で上映した映画会の、花巻市の実行委員会が IBC を中心にありまして、実行委員会が映画会

を主催するのですが、花巻市の友好都市交流委員会もお手伝いすることになりまして、PRさせていただきたいと思ひましてチラシを配らせていただきました。

チケットはいま準備していますので、文化会館にも置きますが、1月になってからのほうが確実に買えるかなというところですので、周りの方にPR等をしていただければと思います。

(佐々木委員)

これは見に行かないとですね。

(久保田副館長)

はい、それでは「4 その他」も終了したいと思います。本日は貴重なご意見等ありがとうございました。

【5 閉 会】(久保田副館長)